

平成22年5月31日現在

研究種目：基盤研究 (A)

研究期間：2007～2009

課題番号：19203011

研究課題名 (和文) 啓蒙思想と経済学形成の関連を問う—グローバルな視点から

研究課題名 (英文) Relations of the Enlightenment and the Formation of Political Economy

研究代表者

田中 秀夫 (TANAKA HIDEO)

京都大学・経済学研究科・教授

研究者番号：40148599

研究成果の概要 (和文)：18 世紀ヨーロッパと英米における啓蒙思想の展開と不可分の関係で在野や大学などの公共圏において形成されていったと思われる経済学という当時の新学問の形成について、焦点をイングランド、アイルランド、アメリカ、フランス、イタリア (ナポリ)、ジュネーヴ、ドイツについて代表的事例を取り上げて歴史的な文脈的に解明し、さらに 19 世紀になるけれども日本の事例も福沢諭吉に即して解明した。

研究成果の概要 (英文)：This project made research to make clear the necessary relationship between the Enlightenments in several countries and the formation of Political Economy as a new science in those countries, including England, Scotland, Ireland, America, Geneva, Napoli, Germany and Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2008 年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2009 年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
年度			
年度			
総計	15,200,000	4,560,000	19,760,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済学説・経済思想

キーワード：啓蒙、ポリティカル・エコノミー、ヨーロッパ、啓蒙の戦略的学問、重商主義、共和主義、道徳哲学、経済学の多元的形成

1. 研究開始当初の背景

この共同研究は、近年のとりわけ英米における華々しい歴史研究、大ブリテン研究から刺激を受けつつ、17 世紀から 19 世紀にかけての大ブリテンとその周辺地域における啓蒙思想と経済学の形成の不可分の関係を解明しようとした前回の研究を踏まえ、それをさらに前進させて、英米圏だけではなく、ヨーロッパ、さらには日本まで視野に入れて、グローバルな視点をもって啓蒙思想と経済学の形成の相互関連を解明しようとするものである。

2. 研究の目的

経済学という学問は 18 世紀の後半に英国、フランス、イタリアなどで学問として成立した。経済学はまさに啓蒙の戦略的知的道具として形成されたのであって、それは社会の改革という啓蒙の課題と切り結んでいた。その関係の仕方には、地域的な差異があり、その差異との関連で、多元的な経済学の形成を比較しつつ明らかにし、同時に各地域の啓蒙の課題の具体的な様相の多様性と共通性についても解明する。

3. 研究の方法

(1) 経済学文献だけではなく道徳論や政治論

をスコープとして、それらを文脈主義的に読み解くというケンブリッジ学派の歴史研究の方法を採用する。

(2)これはできるだけ多くの文献を渉猟し、二次文献が構築している研究史上のイシューを意識的に検証し、改訂を進めるという手法でもある。

(3)すなわち、経済学形成の多様性と共通性に配慮しつつ、戦略的な思想として経済学が形成された文脈を解明するがこの課題に迫りうる方法である。

4. 研究成果

(1)18世紀に経済学形成を推進したのは、特にスコットランド、フランス、イタリアであり、イングランド、アメリカ、アイルランド、ドイツなどでもその萌芽は存在したものの、主要な学問ジャンルには未だならなかった。それはほぼ啓蒙思想として活力を誇った程度に比例している。

(2)市民革命を経験したか、文明化を推し進めたこれらの地域、国では、いまだ下層階級は貧困ではあったが、しかし、国民、民衆の安定した生活、豊かさの実現がすでに課題となっており、有徳な生活と豊かで幸福な生活を、いかにすれば国民大衆に保証できるのか、国民はどのような行動と道徳を実践すべきかということが、社会の課題として正面にすえられ、熱心な論争が巻き起こっていたのである。

(3)その論争は、法的な議論に留まらず、政治論・政策論であり、文明社会論であり、経済論であった。こうした人間性の次元を無視しては経済学という啓蒙の戦略的学問の形成された意味は理解できない。

(4)スコットランドとイタリアでは大学の道徳哲学や法学の教授が、経済学を新しい学問分野として樹立した(アダム・スミスとジェノヴェージ)が、フランスでは貴族知識人や為政者たちがこの学問の担い手であった(モンテスキュー、ケネー、チュルゴなど)。ニコルからボアギルベールにかけてのフランスではアウグスティヌス主義が重要であった。情念、欲望、秩序に関連を見出したアウグスティヌス主義者たちが、功利主義的な経済学の形成にコミットした。

(5)アメリカではフランクリン、ウィザスプーン、アレグザンダー・ハミルトンなどが実際の政策に関与しながら、この新しい学問の形成に寄与した。他方、ジェファスンなどの共和主義者は農本的経済論を展開した。

(6)近代化、文明化の先進国イングランドでは17世紀にペティ、ハリントン、テンブル、ロックなどが、重商主義者やオランダの自然法学者などとともに、先駆的な経済認識をもたらしたものの、18世紀にはオックスフォード大学とケンブリッジ大学の学問が全般的に沈滞していたことも手伝って、経済学の形成、

学問的確立は進まなかった。ダヴナント、デフォー、マンデヴィルやタッカー、リチャード・プライスといった商人、ジャーナリスト、開業医、国教会牧師、非国教徒などが辛うじてイングランドで経済思想を継承発展させたが、学問的な体系化は遅れた。

(7)ジュネーヴでは、フランスの思想的文化的影響があっただけではなく、ピエール・プレヴォを中心としてイングランドの経済思想への関心が強く、スコットランド啓蒙への関心も濃厚で、独自の経済思想が展開されていた。

(8)日本の啓蒙の代表者とされる福沢諭吉について、その経済思想は日本が文明国となるための実業人の育成に眼目があり、後進資本主義国の経済論であって、啓蒙思想特有の限界があった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8件)

①Seki, Gentaro "The Significance of New Labour's Thoughts: With Special Reference to Its Economic Views in the 1990s", Seki, Gentaro, 『経済学研究』(九州大学経済学会) 76巻1号, 27-43頁, 2009年6月, 査読無

②生越利昭(崎田康雄と共著)「マンデヴィルにおける『熟練した政治家』」、『商大論集』(兵庫県立大学) 60巻4号, 1-31頁, 2009年3月, 査読無

③田中秀夫「復活する共和主義」、『社会思想史研究』第32号, 2008年9月, pp. 6-17. 査読有

④田中秀夫「ガーショム・カーマイケルの自然法思想」、『経済論叢』, 181, 2008年3月, pp. 1-22. 査読無

⑤Hideo Tanaka, "Beyond the Ambivalent View of Commercial Society: Commerce, Industry, and Alienation in the Scottish Enlightenment", *International Journal of Public Affairs*, Vol. 3. 2007. pp. 32-55. 査読有

⑥渡辺恵一「スミス租税論再考—地租と内国消費税を中心にして」, 『札幌学院商経論集』第24巻第2号, 2007年11月, pp.1-18. 査読無

⑦後藤浩子「共和主義研究からみた思想空間としての「東中欧」の重要性」, 『社会思想史研究』第31号, 2007年9月, 50-60頁. 査読有

⑧田中秀夫「第三代アーガイル公爵のハイランド経済改革」, 『経済論叢』, 180-2, 2007年8月, pp. 14-33, 査読無

〔学会発表〕（計 36 件）

- 1) 中澤信彦, "The Political Economy of Edmund Burke: A New Perspective", 経済学方法論史国際フォーラム(嘉悦大学), 2010. 3.22.
- 2) 奥田 敬「「国家理性」から「経済的理性」へ—ナポリ啓蒙における〈内政〉と〈通商〉—」, 「生産と分配の経済思想史研究会」(早稲田大学) 2010年3月1日。
- 3) 後藤浩子「アーサー・オナーの政治経済学」, 日本アイルランド協会、アイルランド研究年次大会、2009年11月29日、帝塚山大学東生駒キャンパス
- 4) 田中秀夫: セッション「ヨーロッパ啓蒙とアメリカ」, 社会思想史学会第34回大会、神戸大学、2009年11月1日。
- 5) 生越利昭「持続可能な社会経済システムと地域総合デザイン」(討論者)、「社会・経済システム学会」第28回大会(関西大学)、2009年10月18日。
- 6) 中澤信彦「アダム・スミスにおける視覚と道徳と経済—堂目卓生『アダム・スミス』を読んで—」, 特集「経済と倫理—経済学史・思想史は何を語りうるのか」, 2009年度第1回経済学史学会関東部会(早稲田大学), 2009. 9.26.
- 7) Seiichiro, Ito, 'Law Reform, Registration and Credit in Seventeenth century England', 22th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, the Fremantle Campus of The University of Notre Dame, Fremantle, Australia, 2009年7月16日。
- 8) 中澤信彦「マルサスとイギリス保守主義—拙著『イギリス保守主義の政治経済学—パークとマルサス』補遺—」, マルサス学会第19回年次大会(福岡大学), 2009. 7.11.
- 9) 田中秀夫: セッション「啓蒙と経済学の形成—フランス、イタリア、ドイツの事例」(組織者)、「経済学史学会」第73回全国大会、慶応義塾大学、2009年5月31日。
- 10) 喜多見洋「フランス語圏におけるマルサス人口論の普及過程」2009年5月31日、経済学史学会第73回全国大会(慶応大学)セッション「マルサス主義の国際的普及」第1報告。
- 11) 奥田 敬「ジェノヴェーゼ〈エコノミー・チヴィーレ〉の生成」, 経済学史学会第73回全国大会、2009年5月31日、慶應義塾大学。
- 12) 原田哲史「ユストゥス・メーザーの国家・経済思想」, 2009年5月31日、経済学史学会第73回大会(慶応義塾大学)。
- 13) 中澤信彦「エドモンド・パークのポリティカル・エコノミー」, 経済学史学会第73回全国大会(慶応義塾大学, 討論者関源太郎), 2009. 5.30.
- 14) Harada Tetsushi, „Wirtschaftssystem und Entwicklung bei Werner Sombart: Wirtschaft als 'Kulturbereich' in seinem Werk ‚Die Ordnung des Wirtschaftslebens““, 2009.5.30. Jahrestagung des Dogmenhistorischen Ausschusses des Vereins für Socialpolitik (ウィーン外交官大学 Diplomatische Akademie Wien)。
- 15) 渡辺恵一「スミス労働価値論の再読—商品価値の認識と実在」, 経済学史学会第73回全国大会, 慶應義塾大学, 2009年5月30日。
- 16) 田中秀夫: シンポジウム「アダム・スミス『道徳感情論』出版250周年記念して」日本イギリス哲学会第33回研究大会, 宮崎大学, 2009年3月27日。
- 17) 渡辺恵一「『道徳感情論』における徳の政治学」〔シンポジウムI「アダム・スミス『道徳感情論』出版250年を記念して: 第3報告〕, 日本イギリス哲学会第33回研究大会, 宮崎大学, 2009年3月27日。
- 18) Hideo Tanaka, "The Scottish Enlightenment and its influence on the American Enlightenment," 2009年3月24日 The Second E-Shet J-Shet Joint Conference in Kyoto.
- 19) 喜多見洋「ピエール・プレヴォとBibliothèque britannique—転換期ジュネーブにおける知のインターフェイス—」2008年5月31日、経済学史学会第72回全国大会(愛媛大学) セッション「啓蒙と経済学」第3報告。
- 20) 中澤信彦“Malthus as a Foxite Whig?: A Historical Sketch”, 2nd Joint Conference ESHET-JSHET, Kyoto University (Chair: Hisashi Shinohara, Comment: Richard Arena), 2009. 3.24.
- 21) Seiichiro, Ito, 'Charles Davenant on Richelieu', 2nd Joint Conference ESHET-JSHET, Kyoto University, Japan, 2009年3月24日。
- 22) 中澤信彦「エドモンド・パークのポリティカル・エコノミー」, 日本イギリス哲学会第39回関西部会(京都大学), 2008.12. 6.
- 23) 田中秀夫: セッション「スコットランド啓蒙研究の現状について」, 社会思想史学会第33回大会、慶応義塾大学、2008年10月26日。
- 24) 中澤信彦「パーク対ペイン論争の新展開—その現代的意義およびヒューム研究・共和主義思想史研究との関連」, ヒューム研究学会、第19回大会(岡山大学), 2008. 9. 11.
- 25) 中澤信彦, "The Political Economy of Edmund Burke: A New Perspective", 22st Conference of the History of Economic Thought Society of Australia (HETSA), The

University of Notre Dame, Fremantle Campus, 2008. 7.16.

26) Seiichiro, Ito, 'Interest controversy in its context', 21th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, University of Western Sydney, Sydney, Australia, 2008年7月10日。

27) 中澤信彦 "Malthus as a Foxite Whig?: A Historical Sketch", 21st Conference of the History of Economic Thought Society of Australia (HETSA), The University of Western Sydney (UWS), Parramatta Campus, 2008. 7. 9.

28) Harada Tetsushi, „Die modifizierende Aufnahme der ‚Anschaulichen Theorie‘ bei Z. Takashima und seine Nachwirkungen“, 2008.5.29. Jahrestagung des Dogmenhistorischen Ausschusses des Vereins für Socialpolitik (ベルリン日独センター Japanese-Deutsches Zentrum Berlin)。

29) 田中秀夫: セッション「啓蒙と経済学の形成」(組織者)、経済学史学会第72回全国大会、愛媛大学、2008年5月25日。

30) 中澤信彦「ステュアート、スミス、マルサスと《需要定義問題》」、経済学史学会第72回全国大会(愛媛大学)、2008. 5.25。

31) 後藤浩子「植民と啓蒙——経済学的知が孕むコンテクスト」、経済学史学会第72回全国大会(愛媛大学)、2008年5月24日。

32) Seiichiro, Ito, 'Registration and credit in England 1660-1688', 12th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, University of Economics, Prague, Czech Republic, 2008年5月17日。

33) 田中秀夫: シンポジウム「イングラントースコットランド合同のインパクトー合同300周年記念」(組織者)、日本イギリス哲学会第32回大会、2008年3月27日、帝京大学。

34) 田中秀夫: セッション「啓蒙の自然法思想を再考する」(世話人)、社会思想史学会、第32回大会、立命館大学、2007年10月13日。

35) 伊藤誠一郎「近世イギリス史研究会「合同300周年記念シンポジウム」林、村松、松園報告のコメント、近世イギリス史研究会、2007年10月7日、立教女子学院短期大学。

36) Seiichiro, Ito, 'Continuity and discontinuity-the early stage of the land-bank controversy', 11th ESHET (European Society for the History of Economic Thought) Conference, Louis Pasteur University, Strasbourg, France, 2007年7月6日。

〔図書〕(計 3件)

①比較経済研究所・後藤浩子編『アイルランドの経験: 植民・ナショナリズム・国際統合』法政大学出版局、2009年3月、24+428頁

②中澤信彦『イギリス保守主義の政治経済学ーバークとマルサス』、ミネルヴァ書房、2009年2月、256+95頁

③田中秀夫編『啓蒙のエピステーメーと経済学の生誕』、京都大学出版会、2008年11月、16+420頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~tanaka/index.htm>

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~nakazawa/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 秀夫 (TANAKA HIDEO)
京都大学・経済学研究科・教授
研究者番号: 40148599

(2) 研究分担者

生越 利昭 (OGOSE TOSHIAKI)
兵庫県立大学・経済学部・教授
研究者番号: 30094527

関 源太郎 (SEKI GENTARO)
九州大学・経済学研究院・教授
研究者番号: 60117140

米田 昇平 (YONEDA SHOUHEI)
下関市立大学・経済学部・教授
研究者番号: 20182850

渡辺 恵一 (WATANABE KEIICHI)
京都学園大学・経済学部・教授
研究者番号: 20148365

喜多見 洋 (KITAMI HIROSHI)
大阪産業大学・経済学部・教授
研究者番号: 30211197

原田 哲史 (HARADA TETSUSHI)
四日市大学・経済学部・教授
研究者番号: 70208677

奥田 敬 (OKUDA KEI)
甲南大学・経済学部・教授
研究者番号: 40194493

後藤 浩子 (GOTO HIROKO)
法政大学・経済学部・教授
研究者番号: 40328901

中澤 信彦 (NAKAZAWA NOBUHIKO)
関西大学・経済学部・教授
研究者番号: 40309208

伊藤 誠一郎 (ITO SEIICHIRO)
大月短期大学・経済学部・教授
研究者番号: 20255582